

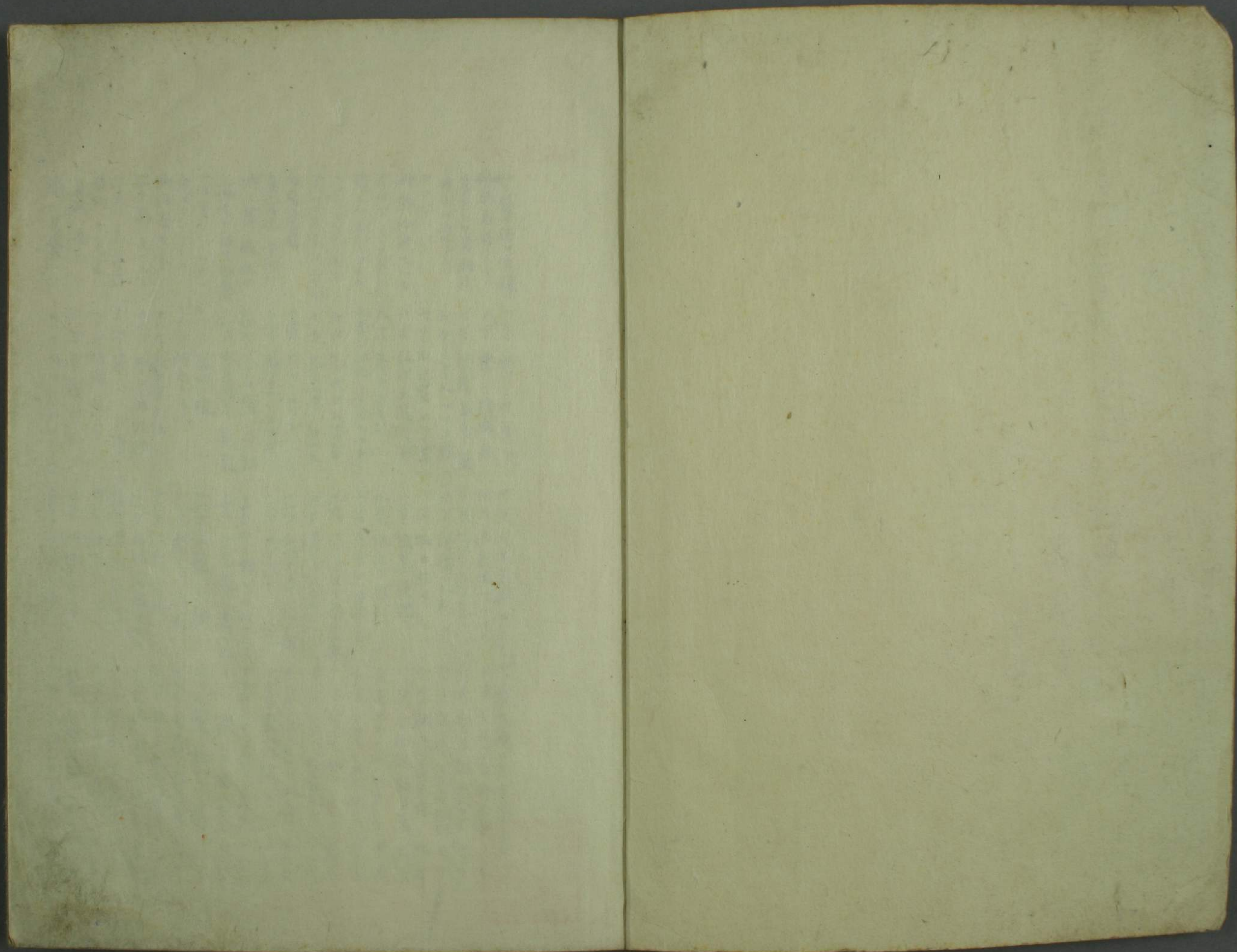
色道大鏡

全



7邊6
1377







好色本種々目録
 傾城名目ノ一
 真夫ミモ男物仕
 舟トリ足トリ
 コアゲ
 坤卦西新ヤシキ
 オロセテクダ
 懸ヌルホルコクル
 トバヌコクノスル
 ソカツルオヒカケニケル
 打碁手甚名
 真化白化ニガホレ
 納戸食 桶伏マ
 元伯道中(盆舟)香甚
 ツカモナキ ウナル
 唐ゴマ
 油梅茶キノミ
 茄子齒 丸トル
 半エリ スッ山道
 單物 カメビラ
 鼻紙 楊枝
 扇 豆袋

ニオ 禿 ヤリヲ
 三オ 唐 傾城長
 六オ 阿房南華燕
 カウ トロキ人アカリ餘
 七ウ 正月買セウ買
 ハオ 引次 立度シウキ
 九オ 来ルヲモハリ
 九オウ 仕込トリ込ハナス
 ナウ モナルカムフツクル
 ナウ ヨビ心中 マハス
 ナオ スシ エスル
 ナ二オ 馬ツキ ヤセカ
 ナ四オ マグル質 千話
 ナ四オ 火手アグル 意氣
 ナ六ウ 富士ハ磯
 ナ六ウ 好色ノ古人
 ナ八オ 殿中流六法
 ナ八ウ 神ノ神 九神
 ナ九ウ 帶 下帶
 ナ二オ 羽織 ムテヒモ
 廿二オ 草履 雪駄
 廿二ウ 編笠 熊谷コモソウ

四オ 太夫天神カコヒ
 四オ 半夜端女ケチギリ
 六ウ ツブシヒル男
 七オ 新艘ツキ出し
 ハオ 物日炊日
 ハウ 後妻夜起
 九ウ 水上根引
 ナオ セシマウ 悪姓ノ哥
 ナオ ヤキテオキタル云証
 ナオ マラシナラヒウツリ
 ナ二ウ タベヨゴシ 茶ヲ挽
 ナ三オ マケア子 下貫
 ナ四ウ ワキ櫻ケト 収コトバ
 ナ四ウ シヤレル乳ノトオルキ終
 ナ六ウ 立髪 大額
 ナ七オ 髪ノ上 髪
 ナ八ウ 紋所ニツ 紋
 ナ八ウ 衣服 深色 コモン
 廿二ウ 腰物 金ツバ
 廿二ウ 埋忠
 廿三オ 傾城ヲハナス
 廿三オ 祿物三職人

四ウ 才 大敵 ヲカハオヒ
 五オ 大臣シヤ料毛
 七オ 禿 立敵 太夫ヨシ
 七オ 端 舐リ口ケリ 綱引
 ハウ 朝込 青豆時
 ハウ 拳屋紙 勘当宮
 ナオ コナシハウソノリ
 ナオ ウカスセカスセリ
 ナ一オ フル 横番キル
 ナ三オ 茶ニケル 大寄
 ナ三ウ 壺入内留 アソヒ
 ナ五オ シヤラツク イウツ
 ナ五オ 山水シラ 騰吹モキ
 ナ七オ 髪ノ結 ヲウ 合僧
 ナ七ウ 引サキ紙ニ茶ニ結
 ナ九オ カノコ 紋所 縫紋
 ナ九オ 嶋ハダギ 小袖ノラ
 廿一ウ 下物 サゴジエ
 廿一ウ 前キチキリ 鼻紙入
 廿三ウ 伽羅ヲ贈ルヘキ
 廿三ウ 文ノ封シウツタバコ



水口ヨリ太夫ノ号呼 廿五才前帶新被出世式 廿六才三職衣服ノ定 廿七才
 中ジノ 禿ノカミ 廿五才太夫着用ノ色 廿六才サカガミ 廿七才
 假粧ヲ嫌フ 廿七才草ノカシ櫛 廿八才此ヲトリアツ 廿九才小神 綿小袖ヨリ廿九才
 髪結ヨリワラフ好ス 廿八才ヒタヒガミ 廿九才衣服ノスツ長短 卍口 卍九才
 ヲキ込帯 三十才折カケ 卍一才髪衣服ニ香ヲ置ル 卍二才遊女髪洗旨日入湯 卍二才
 二布ノタケ色 卍一才六卷ニ大ヨモモ吾聲カフ 卍二才御四ノ割ヤツ 卍三才
 正月賣女即誦キ 卍三才元日ノ礼 節句 卍五才端女 局ノレン 卍五才若衆女郎 吾宮 卍六才
 庭鏡 部屋ニ飾ル 卍五才天神オロシ 卍五才局ノ道具 卍五才女郎蔵才心身ヲカリ 卍六才
 八十代ノ身アガリ 卍七才朝起 卍七才奴風 奴傾城 卍八才三味セ袋 カルタ 卍九才
 夜起ノ一 卍七才躍ノ一 卍七才ヤリテ 定ベヤ 卍八才再引カケ竹籠 卍九才
 傘 ヲリテ女郎ノ衣持 卍九才蚊ヲ焼上手 イウシラ 卍九才花カギヲ下ル 出奔 卍十才諸国姓女目録 卍十才
 アケヤ烟州 卍九才帯スルヤツ 毛九帶 卍十才小藤 八代小太夫 卍十才嶋京ノ起原 卍十才
 原三節大馬門子孫 卍十才 郭門開閉 卍十才伏見車町起原 卍十才鐘木町天神園 卍十才
 嶋京郭中細見 卍十才 羊甲賣日モノ日 卍十才内処圖 鐘木町 卍十才 羊中物日 卍十才
 伏見柳所泥所 卍十才 大津 馬場所柴ヤ町 卍十才 紫ヤ町サビタリ 卍十才 江戸三石元深川 卍十才
 内処苗萱八木出処 卍十才 内処 苗 卍十才 八才 江ノ府中宮城野カフ 卍十才 四才 四才 四才
 越前 救賀 卍十才 吉原オヤヂヤシ跡 卍十才 ヒツタノ鹿子 卍十才 八才 八才 八才
 内 三國 卍十才 柳所ト云ハタニリ 卍十才 地ナシ縫治 卍十才 才 才 才
 毛織ノ名アマタ 二十才 櫛 金子銀ノ子 廿六才 十才 才 才
 羊毛ノ白染緒々々 廿二才 當時衣裳法度 廿六才 瓜ベニロベニ 廿九才 才 才
 湯カタノ紋 卍三才 正月賣ハルニ入リ 卍四才 卍四才 才 才
 圖ノ見苦ニ此京 卍五才 新服出サヌ法

色道大鏡叙 夫陰陽和合之道自從天覆地載以來莫不有之是故易有大極是生兩儀兩儀者陰陽也既有
 陰陽則安得莫有好合之道哉於坎 朝草牀之際觀鶴鴛之動作始而為儻合是季朝色道之權輿也尔
 未色欲之盛行哉許哉聖賢遠之佛祖戒之故禮記曰飲食男女者人之大欲存焉虽然有期人必有期道則
 為期人而不可不知處之道虽大王之至德非真好色然唯有使内無怨女外無曠夫而已若謂國風好色
 而不淫小雅怨詠而怒期通之我朝弘仁之御宇海内人安黎民時雍遊女叙見雨来相續不逸速於元龜天
 正之間漸盛稱遊女掃傾城蓋哲婦傾城之謂也都下競而耽之終成習俗也粵有吞舟軒箕山者其先
 皇上統於涼泰國之蓋裔也彼弱冠遊心于斯道東到于粵武西克肥筑南北縱橫莫所不臻於斯道
 入麗入細無不涉歷且名斯道曰色道然山者定色道之大祖也山自壯齡嘗憶著斯道之奧秘然遊廓達
 望風俗區々不果因慈歷行六十餘劫積年三十有餘而始作為是書以題曰色道大鏡以况三都猶有光者
 乎嗚呼山者所謂當道之巨擘者也情以是書雖似為色欲之媒然勸善懲惡之道自非莫之見善歡之
 見惡懲之素王之遺教者何知不為這書之教誨哉昔時紫氏揮彩管忽者源氏之和什箇中之懷艷麗之情

鑑之の如くせりしをくぬきあつたふ法も其れを我用を角たの流よりとて多く昇妙の他はより者

中国を専らとせば彼はせんは勝りぬ也一それ若くは知らず言ふ所を地れ共多く取らば一

その鼻一をさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

さ地のこま一をさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

常の微腰のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

免角社とて一移りては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

かまらたなる位の位一帯のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

はさすをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

髪乃厚き一髪一帯のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

髪乃厚き一髪一帯のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

髪乃厚き一髪一帯のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

髪乃厚き一髪一帯のたをさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

少は多一其病の如く人々其病の如くもさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
方より陽を名のかむも之但髪は一人をさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
細く分用り男とては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
かたのさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
左のさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
右のさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
たりも其病の如く人々其病の如くもさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
人一日にて七回其病の如く人々其病の如くもさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
血花垢きりかたを洗ふと種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
髪のかたを洗ふと種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其
梅葉もさうしては種々種々を知る一角一板角のたを一程程の至極切のれがうにはまたはよく其

約は此の唐打七宝の漏洩手織物の枕全度痛の指拂の天職若用之 蚊帳 天職若用之

ち八打 派を厚痛の指拂の天職若用之 蚊帳 兩頁身之外の色を割て四天乳縁紅の外何れも五地の指拂子

全銀の毛履端を割て金 右三品割茶乃色三三天職若用之 物長物を割て且物は何れ一指拂工

相と天職若用之を裁やうに 古来より定のりをもことと前時侯約のせと好してより割 郭守り吟

水上の男うけむり中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

此若南時被して中世の朝被へ入平生の知事女市入眠近の天職入御を裁也市又右の七品は

田舎に其此頃長き御用とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
経て御用致する御用とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
今に推して是れ御用とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
よむれまに風流とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
今もそ女御とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
短くち御用とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
御用とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
正有也一神下神のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
トーヤウのありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
城腰のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群

正有也一神下神のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
トーヤウのありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
城腰のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
正有也一神下神のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
トーヤウのありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
城腰のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
正有也一神下神のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
トーヤウのありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
とてつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群
城腰のありとつとつと長崎の似城分偏原律に居る共々をのりし秘群

おとみなともしけとあつむをいふにまじりてあまの御言に相うくされは
とありてなまなまうてあつむともしけの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは

ほけり又あまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは
あつむはまじりてあまの御言に相うくされは

乙酉年
 庚子年
 辛丑年
 壬寅年
 癸卯年
 甲辰年
 乙巳年
 丙午年
 丁未年
 戊申年
 己酉年
 庚戌年
 辛亥年
 壬子年
 癸丑年
 甲寅年
 乙卯年
 丙辰年
 丁巳年
 戊午年
 己未年
 庚申年
 辛酉年
 壬戌年
 癸亥年

久未
 三才
 桂皮
 長
 柏
 方

乙酉年
 庚子年
 辛丑年
 壬寅年
 癸卯年
 甲辰年
 乙巳年
 丙午年
 丁未年
 戊申年
 己酉年
 庚戌年
 辛亥年
 壬子年
 癸丑年
 甲寅年
 乙卯年
 丙辰年
 丁巳年
 戊午年
 己未年
 庚申年
 辛酉年
 壬戌年
 癸亥年

乙酉年
 庚子年
 辛丑年
 壬寅年
 癸卯年
 甲辰年
 乙巳年
 丙午年
 丁未年
 戊申年
 己酉年
 庚戌年
 辛亥年
 壬子年
 癸丑年
 甲寅年
 乙卯年
 丙辰年
 丁巳年
 戊午年
 己未年
 庚申年
 辛酉年
 壬戌年
 癸亥年

系假城之郭外子也...
 乙酉年...
 庚子年...
 辛丑年...
 壬寅年...
 癸卯年...
 甲辰年...
 乙巳年...
 丙午年...
 丁未年...
 戊申年...
 己酉年...
 庚戌年...
 辛亥年...
 壬子年...
 癸丑年...
 甲寅年...
 乙卯年...
 丙辰年...
 丁巳年...
 戊午年...
 己未年...
 庚申年...
 辛酉年...
 壬戌年...
 癸亥年...

乙酉年...
 庚子年...
 辛丑年...
 壬寅年...
 癸卯年...
 甲辰年...
 乙巳年...
 丙午年...
 丁未年...
 戊申年...
 己酉年...
 庚戌年...
 辛亥年...
 壬子年...
 癸丑年...
 甲寅年...
 乙卯年...
 丙辰年...
 丁巳年...
 戊午年...
 己未年...
 庚申年...
 辛酉年...
 壬戌年...
 癸亥年...

東 海 道 町
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門

長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門

長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門

長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門
 長左衛門

江戸は似城郭を物に古くは七
 分位に似て千四百坪ありて
 古くは千坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて
 千四百坪ありて千四百坪ありて

左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、
 左三右三の文の如くは、

越前國敦賀 号六軒町
 敦賀の地郭を六軒町と云ふ
 科十之六次十分宛あり
 越前四三國 号松平
 三國の傾城に松平と云ふ
 是堅所と地務丁とに有

文化五年三月廿日寫亮原本蜀山人

